

第8回薄川流域協議会 要旨

日時：平成16年2月26日(木) 18:30 ~ 20:55

場所：長野県松本勤労者福祉センター 1階 大会議室

次 第

- 1 開 会 (座長あいさつ)
- 2 自己紹介 (該当者なし)
- 3 議 事
 - (1)第7回協議会会議録
 - (2)会員からの資料請求
 - (3)基本高水流量見直し原案について
 - (4)河川改修原案に対する意見交換
 - (5)提言の取りまとめ方について

資 料

複断面護岸と既設石積土台との関係 資料 - 25

第7回会議録

資料は奈良井川改良事務所、松本合同庁舎行政情報コーナー、松本市役所、里山辺出張所で縦覧できます。

会員数

会員数 46名 (出席会員数 22名)

内 容

- 1 第7回協議会の会議録の内容について確認し、奈良井川改良事務所のホームページで公表することになりました。
- 2 前回会員から請求のありました資料について、事務局から資料25により説明を受けました。
- 3 基本高水流量の見直し原案について、事務局から補足説明を受けました。
- 4 河川改修原案について、事務局から補足説明を受けました。
- 5 提言の取りまとめ委員の選出について、座長から提案がありましたが、次回以降に話し合うことになりました。
- 6 次回意見のある方は、文章にして提出して頂くよう座長から話がありました。

質疑・会員からの意見(前回の請求資料に対する説明に関して)

(質問) ・資料25図面の横断図で、護岸が点線で下に延びていますが、現在の高水敷からどの位入っているのか。 また昔の河床高は、点線より上の実線のところになるのですか。

(回答) ・古い石積みの資料がないため、推定で示しております。

- ・太い黒線の下の実線が、当時の計画河床高です。低水路の掘削土を高水敷に盛って、既設護岸の土台を守っています。
- (質問) ・集中豪雨等が出れば上流の土砂が下流に流れていく。下流のA～C区間を掘削しても、再び埋まってしまうと考えますがどうでしょうか。
- (回答) ・川は浸食・運搬・堆積を繰り返しており、多少の下流への土砂移動は仕方がないと考えています。
- (質問) ・奈良井川合流から金華橋までの縦断図を出してもらいたい。見てみないと分からないが緩い所や下がっている所で堆積し、集中豪雨で土砂が下流に流れていく。掘ってもまた埋まるので、毎年のように掘るのは無駄な経費を掛けているのではないか。
- (回答) ・縦断図についてはこの後説明するようになっていきます。上流がきつく下流にいくほど緩くなっており、下流にいつ縦断が上がる計画にはなっていません。土砂掘削は毎年おこなってはおりません。

質疑・会員からの意見(基本高水流量に関して)

- (意見) ・説明を頂いたように、計算したピーク値を採っているが「河川砂防技術基準」によれば
治水安全度は確率洪水だから分かりやす言うと、80年に一回起こる洪水である。また基本高水がピークとは限らない、ピーク値を採らなくても良いとなっている。そして、1/80とズレが生じた場合は検討しなさいと書いてある。今回の説明では降雨規模は1/80として選んでおり、目標としている1/80と同じになっているが、あくまでも基本高水は目標にかかげた年超過確率、80年に一度に起こる洪水でないといけませんがピーク値を採っているため、実際には47年では1/80×47の確率になっている。
流下能力についても実測値が無く、机上で計算しているため誤差が大きいです。これは県全体の問題であり、提言書の中に盛り込んでキッチリした測定システムを作ってもらいたい。80年に一度の洪水であったらそれに近い計画を立てほしい。
- (意見) ・県の「治水・利水ダム等検討委員会」及び今回の検討結果を信用したいと思っている。したがって470トンに基づいた改修計画について検討して頂きたい。
- (質問) ・80年に一回の計画降雨量が198mmと言われたが、雨の降り方のパターンは幾つかありますが、それを確率の所にかける必要がどうして無かったのかも聞きしたい。
- (回答) ・「治水・利水ダム等検討委員会」で土木・財政などのプロが集まって検討して頂いており、同じ手法で見直しをおこなっております。
・今回は198mmに対して引き伸ばしが大きくなりすぎないように2倍以下となる26洪水を計算しています。手法の中で引き伸ばした降雨に対して流量を求めており、26降雨を取り上げて確率処理する考えは、河川砂防技術基準の中にはありません。
- (意見) ・基本高水の定義と治水安全度の定義の整合がとれていない。確率で話をしているのだから、最後まで確率でやっていたら良いが、一番大きいのを採っている。計算した一番高いのを採るのではなく、異常な数字が出たときは検討しなおして妥当な数字を選ぶべきである。

- (意見) ・違いがあるのは計画降雨量 198 mm に対してどの位流れ出てくるのか、雨に対してどの様に流れるか、これは選択の問題である。
「治水・利水ダム等検討委員会」で時間を掛けても結論が出なく、選択の問題は難しい。
徹底的に時間を掛けて基本高水をやっていくのか、皆さんからの意見を聞いた方が良い。
- (意見) ・基本高水については保留とし、今後検討しながら河川改修を考えていくと共に、深さだけでなく、河川巾についても考えていくべきではないか。
- (意見) ・「治水・利水ダム等検討委員会」の答申を受けて流域協議会が設置されており、そこに至るまでの経過をふまえて議論すべきである。基本高水については認めて河川改修について進めていくべきである。
- (意見) ・流量によって掘削深が大きく異なり費用に大きな差が出てしまう。
80年に一回起こる洪水だから、余裕を見過ぎているのは良いとは思わない。
- (回答) ・確率規模で全て流量が出るものではありません。「治水・利水ダム等検討委員会」の中でもピークを採らずにカバー率は80%程度を採る方が良いのではとの議論があったのですが。長野県が管理する河川は中小河川で局地的豪雨も多いことから、全て降雨パターンのピークの流量を採用しています。
- (質問) ・計算し直すにはどの位の時間が掛かるのか聞きたい。
- (回答) ・降雨パターンの中で選んでいるのは、確率論にのっとっていないためそれを確率論でやることは出来ないとしかお答え出来ません。
- (意見) ・物事はみんな発生すれば必ず確率は発生するのです。これはまぎれもなく数学で計算すれば私の言っているような確率になる。

質疑・会員からの意見(河川改修原案に関して)

- (質問) ・薄川の合流から奈良井川合流までは、280mで1mしか下がっておらず上流に比べ緩い勾配になっていないか。
- (回答) ・上流と比べるとゆるい勾配ですが、河床勾配として考えれば、それほど緩い勾配ではありません。
- (質問) ・先ほどの勾配ですと、薄川の合流点で土砂がたまってしまう。掘削しても、毎年のように土砂が溜まってしまうのではないのでしょうか。
- (質問) ・集中豪雨で上流の土砂が流され下流に溜まってしまうのではないか。
- (回答) ・上流の生産土砂の抑止については工法で考えております。勾配分の1の間隔で帯工を設置して河床の安定を図りたい。
- (意見) ・河床は安定するでしょうが、安定すればその上をオーバーフローしていく。生産土砂がゼロなら良いが、山から土砂はどんどん出てくると思われる。
- (意見) ・上流からの土砂移動の議論よりも、拡幅で考えた方が掘り下げるよりも安全ではないかと思います。
- (質問) ・御嶽橋の断面積と比較して栄橋の断面積がどれだけ違うのですか。
- (回答) ・御嶽橋より50m上の断面では余裕高を抜いて、断面積73.6m²(堤外水路を含む)、流速7.9m、河床勾配33分の1。下流本庄橋付近では、断面積86.4m²、河床勾配100分の1、流速5.7mとなります。下流の方が勾配がゆるいため掘り下げが深くなります。

- (質問) ・この計画書の中に橋の架け替えが書いてありますが、工法をどんな様に考えているか教えてください。
- (回答) ・河床を掘り下げることによって橋脚が不安定となりおこなうものです。 詳細についてはこれから検討していきます。
- (質問) ・橋の架け替えは、取り付け道路が大変な工事になるかと思いますが。
- (回答) ・橋桁の厚さを考えるなど取り付け道路への影響も考えていきたい。 影響がある場合は地元にも話をしていきます。
- (意見) ・舟付橋上流は、確率を1 / 30としているが、現地を見て納得した。
- (意見) ・舟付橋から上流大仏まで1 / 30ということですが、護岸がなく山肌に接した所が崩れてきて土砂が川に溜まった場合、自然ダムが出来下流に鉄砲水が発生する。 護岸を越水した水を川に導くような堤防を作っていただきたい。
- (意見) ・上流よりも下流の方が勾配が緩いので堆積しやすいと思います。 また川幅が狭くなったところで流速が早まり、下流に顕著に堆砂したということを考えてみると、遊砂するような土砂が溜まる広い場所を上流に確保する必要がある。
- ・鉄砲水の話が出ましたが、薄川だけの話でなく沢筋すべての話になる。 対策としては森林整備する方法もあると思うが、ある程度出ることを前提とした考え方をしていかなければならないと思う。
- (意見) ・すべて掘り下げて行くかということについて、生物など環境への負荷はないのかということを検討するべきである。 もし環境への負荷が大きいということであれば、拡幅などの方法も検討しないといけない。

質疑・会員からの意見(提言の取りまとめ方に関して)

- (座長) ・提言書をの取りまとめについて意見をお聞きしたい。 座長、座長代理を含めて5名程度でまとめていきたいと思いますがいかがですか。
- (質問) ・協議会として提言する文章をまとめるということですか。 日程的な制約があるということですか。
- (座長) ・終わってからまとめるまでの期間が必要ということで、早めに準備しておきたいということです。
- (事務局) ・タイムスケジュールですが、希望としては3月の下旬頃にはまとめて頂きたい。
- (質問) ・河川整備計画について、ぎりぎり延ばしてたとして事務局は、いつまでを考えていますか。
- (事務局) ・皆さんの議論を急がせるものではありませんが、河川整備計画を早く申請したい。
- (質問) ・議論の途中であり提言書の取りまとめを委員に任せるのは早いのではないか、
- (座長) ・取りまとめの委員にすべて任せるのではなく、最終的には協議会に案を示し了解を得ます。
- (意見) ・審議結果を委員が集約すればいいのであって、慌てて本日決める必要はないと思う。
- (意見) ・基本高水流量のみ議論しており河川改修について議論していない。
- (座長) ・皆さんの意見として本日決めるという意見は出ませんでしたので、提言書づくりの委員はもう少し先で決めることにしたい。

会員からの資料請求等

- ・金華橋までの概略縦断図